



広島文教女子大学教授  
同附属幼稚園園長補佐

## 神原雅之

# 保育者は

# コーディネーター

# 環境による教育の大切さ

## ティータイム

たこ揚げ名人は、たこを宙に浮かべるとき微妙なひもの扱いが実にうまく、風の動きを読む目を備えています。風がないときにはたこ揚げはしないでひたすら風を待つ。その一方で、素人はただひたすらたこを持って走り続け、ついにはたこ揚げがいやになってしまうのです。

幼児の教育は、このたこ揚げの状況によく似ているように思えます。たこは子どもたちの活動、風は子どもたちの心に、そしてたこひもはおとなの存在に見えるのです。

別の例をあげてみます。もともと子どもは歌が大好きですから、どんな状況でも歌を歌ってくれます。しかし、いつも同じ調子で指導をしていると、子どもたちは「同じでつまらない」と正直に言い、もう歌おうとはしません。このようなときは、たとえて子どもたちは歌を歌いたくなくなるような状況だったのか、子どもの興味関心はどこに向けられていたのかを考えてみる必要があります。

卓越した保育者は子どもの心を引き込む指導力をもっています。が、単にその能力だけの問題ではないようです。むしろ子どもの心が焦点化してきたら、保育者は一歩退いて子

どもの心の動きを束縛しないで見守り、子ども自身が自己教育力を尊重し、子どもの焦点化された心が持続できているかどうか気に配るのです。優れた保育者は、こうした硬軟取り混ぜた技をもっています。

子どもを取り巻く「環境」の大切さが叫ばれています。それは決しておとなの存在を過小評価しようとするものではないと考えます。幼児の心と身体の発達に即して経験の場を考慮し、幼児自身が各自の発達課題を達成し得るように状況を整え、幼児自らが試行錯誤し、達成感や充実感をもてるようにする——このような場づくりは、保育者自身が前面に出る場面ばかりではないということを確認するうえで大切なことです。むしろ保育者には、幼児が経験する空間をコーディネートする重要な役割があると考えられます。

そこでは、保護者、家族、仲間、そして地域の人たちの協力や支援をいただきながら、子どもが多様な人間関係や学習経験の場をもてるような空間をデザインする大切な役割を担っているのです。それは子どももおとなも共に生きることに通じているのだと思われれます。